

令和2年度 田辺市社会教育委員会議

第1回定例会（書面決議）の結果について

(1) 説明事項・報告事項について

ご質問・ご意見等

[A委員]

第2次田辺市生涯学習推進計画をすすめるにあたり、今回のコロナウイルスのパンデミックは、社会教育の実施の方法を再考する機会になったと思う。新型コロナウイルスの収束には年単位の時間がかかると専門家の意見もでていいる。

with コロナを見通した社会教育のあり方・やり方を探る必要が生じてきたのではないだろうか。感染拡大予防で生涯学習推進計画が前に進みませんでしたとなるのは、情けない。

[B委員]

(1) 令和2年3月議会について

・一般質問について

①開催済の委員会で具申した事がありますが個人では一番傍聴していると自負もありますが委員会として参政権を訴求する意味でも傍聴する事も必要ではと。

②前田佳世議員の質問-3-に“武道館の利活用について、今後の方針について”

今までは図書館や美術館や文化会館等についての提案なり、関係者からの社会教育委員会への事業説明や協力依頼などの機会はありましたか指定管理としている「紀南文化会館」などの自主事業説明などはありましたか。

③令和2年度当初予算(歳出)

●文化振興課

○紀南文化会館の管理

選定はプロポーザル方式か入札か。

管理費 75,510 千円は年間総額？それとも田辺市の負担分？

●美術館 委託料令和2年度予算 26,403 千円は展示等の費用(借り入れ・設営)

付表-27- 令和元年度 公民館活動の実績 総括表

・公民館の対象地域の地域人口は？利用者率は？

・龍神公民館は東・西・柳瀬・福井その他の参加者総数が 9,877 名？

④別紙資料

・令和2年度 『田辺市まちづくり学びあい講座』

市政運営上、75講座がエントリーされていますが従前には社会教育委員会議で何かの講座の受講はされておりますか。なければ職員さんとの交流等も兼ねて必要性を感じますが。

[C委員]

・令和元年度のまちづくり学びあい講座の実施状況が、グラフで表されているのでわかりやすいです。増減について（平成29年度、平成30年度に申し込みが少ないことなど）、もしわかる範囲で捕捉説明いただけるものがあれば機会のある時に教えてください。

[D委員]

新型コロナの影響によって、情報収集・分析に努める必要を痛感しています。社会教育の分野でも今回の事項から今後大きく変わる部分、改善せねばならない部分が出てくることが予想されます。特に、スポーツツーリズムや美術館・博物館、講演などのように、地域外からの来訪が重要な分野については、利用の在り方を含め地域外からの来訪者、地域の利用者両者の折り合いをつけることが、効果的な運営につながると考えます。まず、新型コロナ対策については、医療機関や行政のバックアップ体制を作るなど、双方の不安払しょくに努めることが、今後不可欠になると考えます。そのうえで、地域外からの来訪者と地域住民が交流できるような催しなどを盛り込めれば、利用状況などの問題解決を図りつつ、効果的な運営や社会教育への効果が見込めると思います。

(2) 協議事項について

承認する	4
承認しない	0
意見を付して承認する	9

ご意見等

[E委員]

ア. 小規模多機能自治を推進する人づくり

市職員・市議会・社会教育委員に対象者を絞った実施方法は良いと思います。

①基礎知識の習得、②演習について

詳細内容についてはもう少し協議したいが、方向性は承認します。

③発表及び総括について

長期での取り組みで行いたいと考えます。

今期での発表、総括は難しいのではないのでしょうか。

イ. 地域を好きな人を作る人づくり

最終年度となる「まちづくり市民カレッジ+」ですが、県内の現状として、新型コロナウイルス感染者は増加せず終息に向かっているものの、今後、冬季に向かい第二波が予想されている中、慎重すぎるかもしれませんが、今年度の開催は、十分に協議する必要があると考えます。

[A委員]

・P3 目的と事業内容の表記は対応している方がわかりやすい

- ・「新しい生活様式」での実施、
- ・P1 アの対象者は市職員・市議会議員・社会教育委員に絞ってあるが、川北氏の承認を得られれば、希望する田辺市に在勤・在住する方には講座の様子を見る事ができるようなにはならないだろうか？
- ・イの公開講座 場合によってはリモートでできる方法はないのだろうか。

[B委員]

2020年5月13日現在和歌山県内でのコロナウイルスが一人増えて63名となりました
皆さんが、もう消えてもいい頃ナー と思っているかと
今コロナウイルス終息後の経済環境への“出口戦略(afterコロナ)”を見据えてのbefore
→afterから、事後対策が社会生活や行政環境からも急務が可視化されてきています
当会議においても「社会教育」の立ち位置からも出口から“出た先戦術”を協議し、「教育」から『共育』へ見直し提案が必須と思います

見直しリノベーションは【**ソーシャル ディスタンス** + **フィジカル ディスタンス**】をコンセプト提起)

第3期「まちづくり市民カレッジ+(プラス)」の見直し

◎実施要項(案)について

○日程変更

1)人口構成予測の作成講座 の前に

「小規模多機能自治」や特に「人口構成予測」にはコロナ感染下の与条件であるデータや事象がどこにもありません

よって、『**コロナ after ソーシャル新常態計画**』に向けて、職員・議員・社会教委のトライアングルの組織構成を図り立案を行い、社会教育委員会として提言をしていく

①組織構成 公民連携の体制化

②【**C・A・S NEWPLAN**】通称：**キャスプラン** の立案

③文教厚生委員会などの市議会委員会への社会教育委員会提案

境域内のDID地区の人口ブレイクアウト手法など、

“原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接”の設定の見直し e t c



方針の基本は委員会の立ち位置から“**ソーシャルディスタンス**”で“**社会的距離**”を拡げる田辺・龍神・大塔・中辺路・本宮とそれぞれの地域地区でコンパクトエリア化を提言・提案していきませんか

第3期「まちづくり市民カレッジ+(プラス)」実施要項(案)

4. メインテーマ 「田辺の暮らしの魅力を探る～日本一の**ローカルマインド**を目指して…」
「ローカルマインド」 ⇔ 『**グローカル(グローバル+ローカル)マインド**』として広域と

看脚下での両眼の視点を指す？ いかがですか

※もどれる？ 戻れない？

コロナ感染を回避できる、これからの“心構え”としてソーシャル や
“立ち位置”はフィジカルに

“コロナ モジュール”での、政策や施策や言動が不可欠になるのでは

このブルーは医療従事者にエールとして送ります

[F 委員]

実施スケジュール案の修正について、日程の変更について異論はございません。
実施の見合わせも、高校出張はさすがに無理でしょうから、事務局案の通りで結構です。

実施要項についてですが、サブテーマの「田辺が大好きな人をつくろう！」というのは、
我々運営サイドの考え方として持っておくことで、最近、外向けに言うことではないよ
うな気がしています。

田辺が大好きな人をつくるのは我々の思いや狙いなので、言ったとしても今回でいくと、
「基礎知識の習得」の対象者。つまり関係者であり、その対象者（市民）に面と向かって
「つくろう！」と言われてしまうと、相手もちょっと引くような気がしています。考えず
ぎでしょうか。

[C 委員]

第3期の実施要項（案）で、受講対象者に「市職員」と入っているのは、「在勤の大人」に
含まれるのでは。あえて特筆する理由があるのでしょうか。

[G 委員]

基礎知識の習得は良いですね。私も学びたいと思っていました。スケジュールも今年は、
今後どうなるか分からないですけど、予定通り進む事を祈りながら、日々を過ごしましょ
う。

[D 委員]

コロナの影響で、人口構成予測講座など、今後の地域づくりの基礎になる人材育成が当初
より限定的に変更せざるを得なかったのは残念です。

しかしながら、変更後の受講対象者も今後の地域づくりに携わる責務・立場にある方々で
す。そのため、参加者を開始、地域住民や関係者がいかに伝え、共有し、活用していくか
というアウトプットの部分が、より重要になると考えます。

開講に際し、主催者サイドからアウトプットを受講者に意識付けする工夫ができれば、と
思います。

[H 委員]

実施要項（案）について

事業内容

ア. 小規模多機能自治を推進する人づくり

「～『小規模多機能自治の推進』を ~~下支えする~~ 共に進めていく ための～」

「当初広く一般市民の方にも参加を呼びかけ、～」の文章を、「当初は、一人でも多くの人材育成を目指し、広く一般市民にも参加の呼びかけを考えていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対象を～」に修正

①基礎知識の習得

2) ファシリテーション講座

「各地域における話し合いの場等において、～」の文章を、「各地域における会議やワークショップ等において、話し合いを有意義かつ有意義かつ円滑に進めるための技術の習得を目指します。原則、人口構成予測作成講座と併せての受講を呼びかけていきます。」に修正

②演習

「～~~課題発見・課題解決策~~ 課題の発見・解決策 の検討及び実行～」

「～また、一部の地域での話し合いの場への参加も検討していきます。」の文章を、

「～併せて、一部の地域における実践演習を検討していきます。」に修正

③発表及び総括

「実践事例について (は)、川北氏～」

イ. (自分達の住む) 地域を好きな人を作る人づくり

実施スケジュール (案) について

「～当初考えていたスケジュール~~について~~ を見直し、別紙のとおり変更 (延期) していくように いきたいと考えています。」

実施要項 (案)

3. 後援 紀伊民報への依頼は？
4. メインテーマと 5. サブテーマが一番上にくるのでは？
6. (1) 受講対象者は、事業内容のアとイでは異なるのでは？

[I 委員]

事業実施スケジュール変更 (案) を見ると、後半が盛りだくさんで、大変そうだと思います。今年度は異例続きなので、まだこの先もどうなるかわからない部分もあり、無理のない程度に、縮小できる部分はしていく方がいいと考えています。

(3) その他 (委員からの自由意見等)

[E 委員]

第1回定例会の開催につきまして、皆様との協議もせずこのような形で進める判断をし、申し訳ございませんでした。

県内では感染者数の増加も無く、緊急事態宣言の緩和に向かっている中で、特定の限られた人数での会議であり感染対策を行ったうえでの開催や、6月に定例会を延期する選択肢もありました。が、この時期だからこそ、委員の皆さんも本業に専念したり、ご家庭 (ご

家族)への思いがあると考え、慎重過ぎるかも分かりませんが、この度の書面での承認といたしました。

第1回定例会、職員方々が異動された後でもあり本当に残念ですが、一日でも早く皆さんとお会いし、また一緒に協議ができる日を他の市民にしておりますので、委員の皆さん、事務局、職員の皆さんも十分にお気をつけてお過ごしください。

[A委員]

人と人が出会い つながる地域を目指している中、「感染予防には人と人が接触しないことが今個人にできることである」という啓発が必要とされている。

人を分断する新型コロナウイルスのパンデミックの時を社会教育委員という立場で見ていると、「仕切り直し」を求められているように思うのだが、私には何をどうやっていったらいいのか、わからない。

今後、社会のありようが変わるであろう時、「私たちのまちの未来予想図Ⅱ～人口構成予測からみえてきたもの」の結論はどこに落ち着くのだろう。

[B委員]

私見)

新聞やテレビのマスコミで昨今見聞きします

マスクの寄付、飛沫防止スクリーンの寄付、5月19日付けの読売新聞和歌山版の記事では“コロナ対策充当 報酬10%カット 有田川町議会”とありました

個人的には市役所の某担当課には個人としてアクションを起こしましたが、ここで社会教育委員会として何等かのコロナ対策に貢献できないでしょうか？

例えば、市役所からの税金供出の「社会教育委員報酬」の一部を市に対して寄付を行う

※やって見せ、言って聞かせて、させてみて…(山本五十六) でしょうか

[F委員]

その他の、グラフィックレコーディングですが、いい取り組みだとは思っていますが、これまでやってみて、それがどこまで活用されているのか、少し疑問を感じ始めています。ほかの委員さん、あるいは事務局担当の皆さんは、どんな評価をされていますでしょうか。当日、記録を写真に撮ってくれている人もいましたが、ごく少数のような気もしています。

今年度もグラフィックレコーディングを導入するのであれば、どう活用するかについて今一度、きちんと確認しておく必要があるかと思えます。自分自身としては、明確な活用法がいまのところ見いだせていないので、思い切ってなくしてしまっ、代わりに動画として記録を残しておく、という方法を考えてもいいのかも、と思ったところです。

動画記録を外に出してもいいときは、広く希望者に渡してあげる(方法は考えるとして)、外部に出してはいけないときには、関係者限り、内部限りということで希望者に提供して復習に使ってもらう、というところでしょうか。

[G委員]

コロナ、コロナと色々な事を中止にするのは簡単ですが、終息しそうにないので、予防対策をきちんとして、社会を動かして行く事を、生涯学習していきましょう。世の中が暗く

なるのは、避けなければいけないと思います。

[J 委員]

今後もまだまだ防止対策が必要かと思われまますので、ネット（HP）等を活用し何か発信できないかと思ひます。具体的に案は現在ありませんが、やり方によってはいろいろな方からの意見や案を頂く機会になるかと思ひます。

[K 委員]

これからは「新型コロナと社会教育／地域づくり」や「新しい生活様式と社会教育／学びのカタチ」などがテーマになってきますね。これは次年度以降の論点になりますでしょうか。